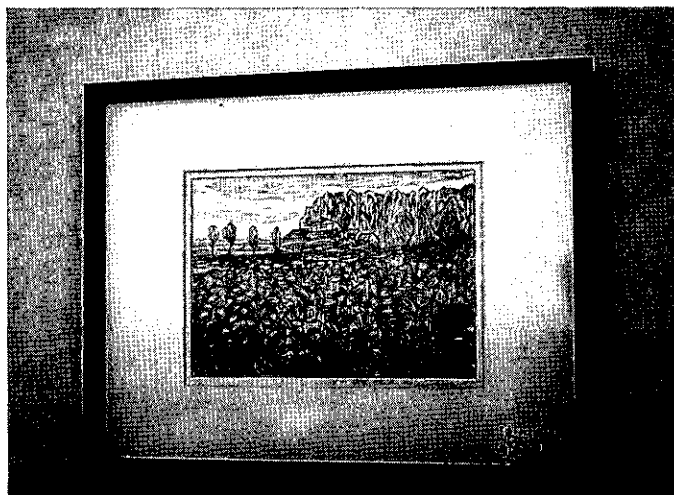


第三部 定 時 制



▲第十代校長菊野和夫先生画「東北晩夏」

創立五十周年を迎えて

定時制教頭 金城 和貞

創立五十周年そして新校舎落成おめでとうございます。

現在の良き校風、良き伝統を守り育んでこられた、卒業生の皆様はじめ、歴代の教職員の皆様、保護者の皆様、地域の皆様には、心よりお祝いと感謝を申し上げます。

本校は、昭和二十三年四月に、都立向丘高等女学校（昭和一〇年四月に創立された東京市豊島区実科女学校が前身）と都立本郷女子商業学校（大正七年四月に創立された東京市本郷区第一女子実業補習学校が前身）が統合されて都立向丘本郷新制高等学校として開校しました。同時に、都立本郷実業専修学校が本校定時制として認可され、翌二十四年三月には定時制の第一回の卒業式が挙行され、二二九人が卒業いたしました。以来半世紀を経て現在四千三百有余人の卒業生を送り出しております。

手元に昭和三十三年の学校要覧があります。就職状況を見てみますと、在校生六一三人の内、定職三六六人・臨時七三人・自家業七四人・家事五六人・その他四四人となっております。大半の生徒が仕事に就いていました。その内、給料から家計へ補助をしている生徒が六二％もいて、働きながら家計を助け学校にも通っていたことが窺えます。頑張つて学校に通い勉強していたことがわかる項目として、授業への出席率が九〇、八％、遅刻率が七、四％、早退率が二、九％という数字や、自習時間の項目では、七割以上の生徒が毎日予習復習の勉強をしているとの集計結果が載っております。住まいも文京区が六割ですが、のこりは都内二三区全域や、近接県の居住でかなりの時間をかけて通学していたようです。

このことから、「一生懸命働き・学ぶ」姿が浮かびあがってきます。都内の公立中学校から、高校への進学率がまだ七割程の頃ですので、「みんなが行くから自分も行く」というような安易な目的で高校に

通っていたのではないことが想像できます。現在の定時制の生徒の状況とは比べようはありませんが、時代の流れと歴史の重みを感じざるを得ません。

では、今の高校生はどうでしょうか。平成四年の子供の自立（高校生）に関する世論調査で「朝ひとりで起きる」六三％、「勉強しろと言われなくても自分で計画を立て勉強する」二八％、「将来何になりたいか決めている」四二％などとなっています。前述の昭和三十三年当時の高校生に同じことを調査したらどうであつたらうか、興味の湧くところでありませぬ。

別の調査では、今の子供と親の子供時代との比較では、「流行に敏感である」、「現実的で夢がない」、「あきらめがよすぎる」、「友達づきあいが下手だ」などがあがっています。

中学生の規範意識の調査では、「学校でアメなどを食べる」四四％、「授業のときマンガを読む」四七％、「自室でタバコをすう」三五％、「他人の体育館履きを無断で使用する」四六％、「自転車の二人乗りをする」九三％が、悪いと思っていないという集計結果が発表され、現代の子供の意識の変化には驚くばかりです。

現在、開かれた学校が叫ばれ、社会や多様化した生徒への対応が求められています。定時制においても、『働きながら学ぶ生徒への支援』から、『多様な価値観や要求をもった生徒への支援』へと、学校の取り組みも変わってきました。生徒の一人ひとりの興味や関心、能力や適性に応じて将来の進路や現在の生活について考えさせ、目的を持って学校生活を送ることにどう関わっていくかが、学校としての役割であります。保護者の皆様や、同窓の皆様、地域の皆様とも協力して、進めていかなければならないことでもあります。

在校生、現教職員ともども、諸先輩方の足跡を踏みにじることなく、さらに本校を発展させていくために頑張っていきたいと決意を新たにします。

定時制沿革

『創立から10年目まで』

〔昭和23年（1948）〕

- 4月1日 都立向丘高等女学校と都立本郷女子商業学校とが統合して都立向丘本郷新制高等学校が開校
 学制改革により昭和22年3月31日設立の都立本郷実業専修学校が都立向丘本郷高等学校定時制となる
 4月26日 定時制高等学校として新聞発表
 5月21日 入学試験
 6月8日 入学式
 6月9日 真砂小坂校舎にて授業開始

〔昭和24年（1949）〕

- 3月6日 第1回卒業式挙行
 普通科136名・商業科8名・被服科14名卒業
 5月20日 新校舎落成式挙行（木造二階建スレート瓦葺）
 7月30日 文京区駒込追分町100番地（現在地）の新校舎に移転
 10月16日 同窓会開催
 11月5・6日 文化祭実施

〔昭和25年（1950）〕

- 1月28日 都立向丘高等学校と校名変更

〔昭和26年（1951）〕

- 7月7日 第1期増築校舎落成記念式挙行（木造二階建スレート瓦葺）
 8月 グランド南側へ校地拡張

〔昭和28年（1953）〕

- 1月31日 運動場整地工事終了
 7月4日 第2期増築校舎落成記念式挙行（木造平屋建スレート瓦葺）

〔昭和29年（1954）〕

- 2月3日 校旗できる

〔昭和30年（1955）〕

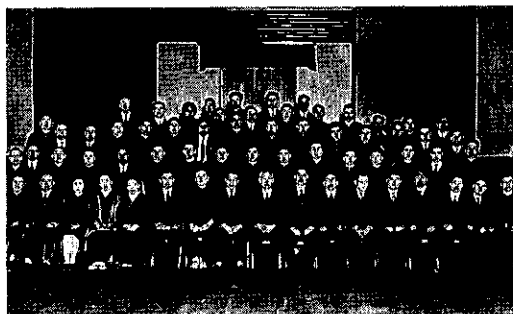
- 9月27日 第3期増築校舎落成記念式挙行（木造二階建スレート瓦葺）
 11月6日 文化祭全日制と合同で開催

〔昭和31年（1956）〕

- 倉庫・門衛所・若竹寮がPTAより寄付される

〔昭和33年（1958）〕

- 1月25日 給食施設落成火入式（木造平屋建モルタル塗セメント瓦葺）
 11月8日 第10回文化祭全・定共催



昭和24年3月 第1回卒業式



昭和24年5月 新校舎落成式典

『11年目から20年目まで』

〔昭和34年（1959）〕

- 8月18日 体育館兼講堂竣工（1階851.8㎡・2階220.6㎡鉄筋コンクリート造）
 11月10日 体育館兼講堂落成式挙行

〔昭和35年（1960）〕

- 5月1日 修学旅行団関西方面へ出発
 11月11～12日 第11回文化祭全・定共催

〔昭和36年（1961）〕

- 5月27日 中央校舎（2号館1293.6㎡）取り壊し終了（昭和23年度建築校舎）

〔昭和37年（1962）〕

- 8月8日 中央校舎残存部分取り壊し終了（昭和23年度建築校舎）
 11月7日 中央校舎増改築第1期工事竣工（1407.1㎡鉄筋コンクリート造）

- [昭和38年 (1963)]
3月30日 中央校舎増改築第2期工事竣工 (938.9㎡鉄筋コンクリート造)
- [昭和39年 (1964)]
3月31日 中央校舎増改築第3期工事竣工 (822.1㎡鉄筋コンクリート造)
4月27日 中央校舎屋上に天体観測室 (18㎡鉄筋造PTAより寄付)
8月1日 所在地表示変更により文京区東京都向丘1丁目11番18号となる
11月6日 第4学区定時制演劇コンクール開催 (於本校体育館)
- [昭和40年 (1965)]
3月31日 南校舎 (1号館) 新築 (1019.3㎡鉄筋コンクリート造)
- [昭和42年 (1967)]
3月1日 生徒会部室新築 (鉄筋2階建)
- [昭和43年 (1968)]
3月31日 1号館増築 (定時制職員室・保健室・用務員室等)
9月22日 創立20周年記念式典挙



昭和40年 新校舎



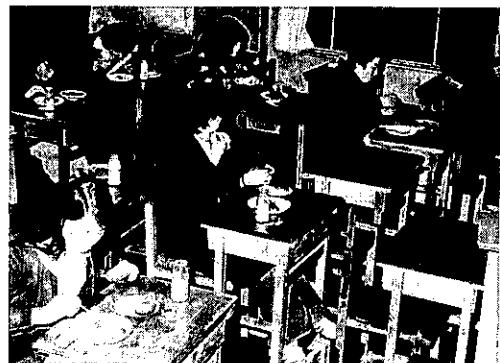
昭和40年3月 卒業式

『21年目から30年目まで』

- [昭和43年 (1968)]
3月10日 第20回卒業式
4月22日 1号館4階増築竣工 (生物室)
5月30日 屋外照明設備引継
- [昭和44年 (1969)]
2月28日 1号館4階増築竣工 (図書室)
- [昭和45年 (1970)]
3月19日 第22回卒業式被服科最後の卒業生 (4人)
12月19日 門衛所取り壊し
- [昭和46年 (1971)]
4月26日 運動場整備、中庭・前庭整地舗装完成
- [昭和50年 (1975)]
4月1日 1号館冷暖房工事竣工
- [昭和52年 (1977)]
9月30日 新3号館竣工 (3345㎡)
10月7日 創立30周年記念式典・新3号館落成記念式典



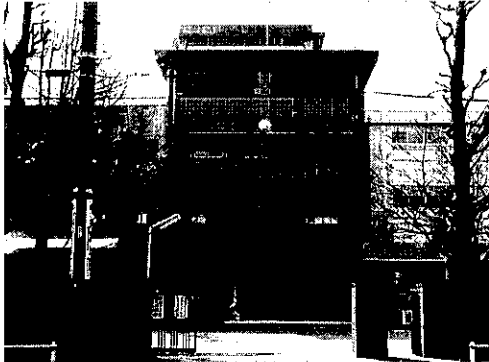
昭和43年 授業風景



昭和51年 給食風景

『31年目から40年目まで』

- (昭和57年 (1982))
 - 1月31日 体育館落成
 - 11月20日 旧体育館解体工事終了
- (昭和58年 (1983))
 - 3月31日 テニスコート完成・校庭整備完了
- (昭和61年 (1986))
 - 8月22日 ブロック塀解体、フェンス新設・緑化工事竣工
- (昭和62年 (1987))
 - 2月16日 グランド照明改修工事竣工及び植樹
 - 11月7日 創立40周年記念式典挙行



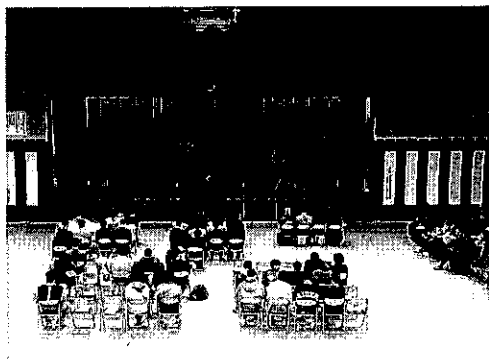
昭和54年当時校舎



昭和62年度 卒業式

『41年から現在まで』

- (平成4年 (1992))
 - 4月1日 LL教室竣工
- (平成5年 (1993))
 - 4月1日 商業科募集停止
- (平成6年 (1994))
 - 9月1日 校舎改築のため仮校舎に移動
- (平成7年 (1995))
 - 2月8日 旧1号館、2号館解体工事終了
 - 3月7日 埋蔵文化財発掘調査着手 (9月30日まで)
 - 9月27日 新校舎改築工事着工
- (平成8年 (1996))
 - 3月31日 商業科廃止
- (平成10年 (1998))
 - 1月30日 新校舎改修工事竣工
 - 2月16日 新校舎へ移動
 - 10月10日 創立50周年記念式典・新校舎落成記念式典



平成6年度 卒業式



平成10年5月 校舎全景昭和62年度 卒業式

教育課程と授業の風景

定時制における教育課程の変遷と授業の風景を、現存する学校要覧、周年誌、及び卒業アルバムをもとに、追ってみよう。

学習指導要領の改訂は一九四七年の試案から一九九四年の現行改訂まで五回行われた。ここではこの改訂にあわせて追うのではなく、定時制の大きな変動期がどのようなカリキュラムであったか、そこではどのような授業が展開されていたのだろうか、というように追ってみよう。

開設当初の学級編成や生徒定数は流動的で普通科が三クラスあったり、一クラス七十名以上であったりしている。教育課程表は残念ながら現存しない。

資料1は一九六〇年の教職員生徒在籍表、資料2は教育課程である。A Bが普通科、Cが商業科、Dが被服科である。

勤労青少年の教育の場である定時制の黄金時代は、開設当初からこの時代前後が第一期である。クラスの半数近くが進学を希望し、学校行事も(写真2)生徒会活動もクラブ活動も(写真3)活発に行われ、夏休み中には、生徒の希望で補習も行われていた。生徒総数六三三名教職員総数四三名の大所帯で教室もにぎやかで活発な授業が行われていたと想像される(写真1)。授業は午後五時三十分から九時十分までで現在同様二期制である。この

ときの就職率は九三%である。一九六六年に被服科が募集停止となる。写真4は被服科最後の授業風景である。

資料1. 1960年

職 員		校長	教諭	非常勤務	事務主事	事務主事補	学校医	学校歯医	学校薬剤師	用務員	警備員	合 計				
		男	女	計												
	男	1	19	6	2	0	1	1	0	1	2	33				
	女	3	5	2	0	1	0	0	1	1	0	10				
	計	1	24	8	2	1	1	1	1	2	2	43				
生 徒		1 年			2 年			3 年			4 年			全 学 年		
		普通科	商業科	被服科	普通科	商業科	被服科	普通科	商業科	被服科	普通科	商業科	被服科	普通科	商業科	被服科
	定 数	100	50	30	100	50	10	100	50	10	100	40	30	400	190	80
	在 籍	93	43	8	102	58	10	102	48	28	93	41	27	390	170	73
	休 学		1			1		1		1						



写真2

▲昭和34年 運動会



写真1

▲昭和33年 授業風景



▲



▲



▲昭和33年クラブ活動剣道部、華道部、化学部写真3



▲昭和44年最後の被服科写真4

教科課程表

学年 クラス	1				2				3				4				計				合計	
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D		
国語	甲	3	3	2	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	3	3	10	10	9	9	38	
	乙												3	2			3	2			5	
漢文												2				2				2		
社会	社会	4	4	3	4												4	4	3	4	15	
	日本史											3	4	4			4	4		3	11	
	世界史					3	3	3	3								3	3	3	3	12	
	人文地理									4	4	3				3	4	4	6			
数学	数学 I	5	5	3	3	3	3	3	3								8	8	6	6	28	
	数学 II									3	3						3	3			6	
	数学 III														5			5			5	
理科	物理									3	3				3		3	6			9	
	化学					3	3					3			3	3	3	3	3	6	15	
	生物学	3	3					3	3								3	3	3	3	12	
	地学												3				3				3	
保健体育	保健									1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	8	
	体育	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	7	7	7	7	28	
芸術	音楽									2	2						2	2			4	
	美術					2	2							2			4	2			6	
外国語	英語	3	3	3	3	4	4	2	2	3	3	2	2	4	4	3	2	14	14	10	9	47
	小計	20	20	13	14	20	20	15	15	20	20	10	13	22	22	14	10	82	82	52	52	268
職業	計算事務	2	2		2												2	2		2	6	
	工業			2(男)	2(男)					2(男)							(4)	(2)			6	
	家庭			2(女)	2(女)					2(女)							(4)	(2)			6	
商業	商業一般			1			2				1							4		4		
	経営														2			2		2		
	経済														2			2		2		
	商業法規										3							3		3		
	商品										2							2		2		
	商業簿記			4				4			2							10		10		
	工業簿記										3							3		3		
家庭	会計														3			3		3		
	計算実務			2				1			1				1			5		5		
	家庭一般				4															4	4	
	被服								5			5								10	10	
	食物								2			2								4	4	
	被服経理															2				2	2	
家庭	仕立															8				8	8	
	手芸・色染				2						2				2					6	6	
	小計	2	2	9	8	2	2	7	7	2	2	12	9	0	0	8	12	6	6	36	36	84
特別教育活動	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	8	8	8	8	32	
合計	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	96	96	96	96	384	

その後定時制生徒は急激に減り、一九七三年生徒募集定数が一クラス三〇人となった。

資料3は第三次改訂後の一九七四年度の教育課程で、編成は普通科二クラス、商業科一クラスである。この改訂で自由選択一単位が置かれた。この時代からさかのぼって十年位は女子が全体の三分の二を占め、特に准看護婦が生徒数の半分で、卒業後の正看護学校受験を目指してよく勉強したであろうと想像される。写真5は生徒の職場訪問の風景である。生徒は減ったとはいえ、目的意識を持って学習している生徒が中心の学校はまだ黄金期である。

一九八〇年前後に高校の増設が続き、また准看の卒業生を三年に編入させられなくなつて、生徒の状況は一変した。在校生の七、八

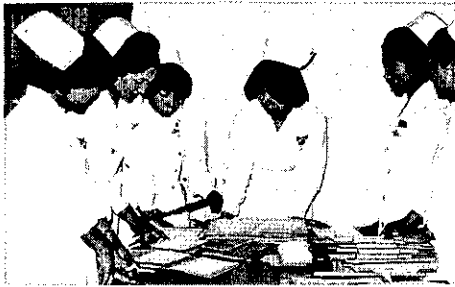


写真5 ▲昭和51年

資料3. 1960年

9. 本年度の教育刑格 (1974年)

(1) 本年度教育課程

・印は男女別 △は必修選択科目

普通科						商業科					
科目	1年	2年	3年	4年	計	科目	1年	2年	3年	4年	計
現代語 I	2	2	2	1	7	現代語 甲	2	2	2	1	7
国乙 I				1	1	倫理 社会				2	2
古典 I	2	2			4	政治 本				2	2
古典 II				△4	△4	政日 地				3	3
倫理 社会			2		2	数学 II A	4	2			6
政治 本				2	2	数学 II A		2	2		4
政日 地				3	3	化学 A					
世界史 A	3				3	体育 健	2	2	2	2	8
数学 I B	4	2			6	体保	1	1	1	1	3
数学 II B		2	4		6	音楽 I A	2			2	2
数学 III				△4	△4	英 家庭一般	2	2	2	2	8
物理学 A				3	3	(小計)	12	14	11	12.2	49.2
化学 B	2	2		2	4	商業一般	3			2	3
生物 I				2	2	経 管				2	2
物理 II				2	2	法 規			3	2	3
化学 II				2	2	簿記 会 計 I	4				4
生物 II				2	2	簿記 会 計 II		5			5
体育 健	2	2	2	2	8	簿記 会 計 III			3		3
体保	1	1	1	1	3	簿記 会 計 IV				3	3
音楽 I I	2	2	2		2	簿記 会 計 V				2	2
英 語 A	2	3	3	3	11	簿記 会 計 VI	2	2	2	2	6
家庭 一般				△4	△4	簿記 会 計 VII				2	2
家庭 経営				△4	△4	簿記 会 計 VIII				2	2
商業 簿記	2				2	簿記 会 計 IX				2	2
簿記 実務						簿記 会 計 X				2	2
商業 簿記						簿記 会 計 XI				2	2
簿記 実務						簿記 会 計 XII				2	2
(小計)	21	21	21	21	84	(小計)	9	7	10	7.2	33.2
自由選択	1	1	1	1	4	自由選択	1	1	1	1	4
HR・クラブ	2	2	2	2	6	HR・クラブ	2	2	2	2	8
合 計	24	24	24	24	96	合 計	24	24	24	24	96



写真6 ▲平成3年 授業風景

割が私立、都立の全日制の前歴を持っており、殆どが東京都出身者になった。また仕事もアルバイトが定職を上回った。この頃から、授業中に教室内を立ち歩く生徒がでてきている、第四次の改訂により自由選択の一単位がなくなっている。

この時代から全日制の補完機関としての割合が高くなった。

その後生徒が急激に減少し、一九九三年商業科が募集停止となり、一九九五年普通科一の単学級校となった(写真6)。

資料4は本年度教職員生徒の在籍数、資料5は教育課程である。生徒の状況は障害を持つ生徒の入学をはじめ、更に困難になった。新入生徒の七、八割が何らかの原因で中学校時代に不登校を経験しており、他校に比べれば相当緩やかと思える出席条件を、越えられない生徒も少なくない。また無職のものも過半数である。

資料4

教職員		校長	教頭	教諭	養護教諭	嘱託員	講師	事務長	主 事				学校医務	薬剤師	合計
									事務	司書	栄養士	給食			
	男	1	1	5		1	3	1				1	5		18
	女			2	1		6			1	1			1	12
	計	1	1	7	1	1	9	1		1	1	1	5	1	30
生徒			1 年		2 年		3 年		4 年		全 学 年				
			普通科		普通科		普通科		普通科		普通科		普通科		
	定 数		30		30		30		30		120				
	在籍者	男	10		7		5		5		27				
		女	9		5		9		6		29				
	計		19		12		14		11		56				
休 学		0		0		0		0		0					

資料5

教科 科目	課程年	普 通 科					備 考
		1	2	3	4	計	
国 語	国 語 I	2	2			4	
	国 語 II			2		2	
	現 代 文 語				3	3	
	古 典 購 読						
地 歴	世 界 史 A			3		3	
	日 本 史 A				◇2	◇2	
	地 理 A		2			2	
公 民	現 代 社 会	3				3	
	数 学 I	2	2			4	
数 学	数 学 II			3		3	
	数 学 III				◆2	◆2	
	数 学 A						
	数 学 B						
	理 科	物 理 I A					
理 科	化 学 I B			2	3	5	
	生 物 I B	2	2			4	
	地 学 I A				◇2	◇2	
保 健 体 育	体 育 健	2	2	2	2	8	
	保 健	1	1	1		3	
芸 術	音 楽 I	☆2				☆2	
	音 楽 II	★2				★2	
	美 術 I	☆2				☆2	
	美 術 II	★2				★2	
	書 道 I			2		2	
	書 道 II				2	2	
外 国 語	英 語 I	2	2			4	
	英 語 II			3		3	
	オーラル・A	1	1			2	
	ライティング				3	3	
家 庭 科	ラ イ テ ィ ン グ				◆2	◆2	
	家 庭 一 般		2	2		4	
商 業 科	食 物				3	3	
	流 通 経 済 規 則	3				3	
教 科 の 合 計	商 業 法 規		2			2	
	計	20	20	20	20	80	
ク ラ ブ 活 動		1	1	1	1	4	
ホ ー ム ル ー ム		1	1	1	1	4	

☆、★、◇、◆の記号はそれぞれの中から1科目を選択する。



▲平成8年 ワクワクする理科の実験写真7

今までもどこでも主人公になれなかった生徒がのびと学校生活を送り、自身を持って社会に出ていけるようになることが我々定時制教職員の願いである。

このような生徒のために、芸術、食物、商業などの実技教科を増やし、更に授業では、実験を増やし(写真7)、ビデオを活用し、パソコンを導入したりしている。

とはいえ、大学進学者も少数ではあるが続き、小人数の生徒と教職員で、和気あいあいと、アットホームな定時制の授業は続けられている。(文責 若菜信子)

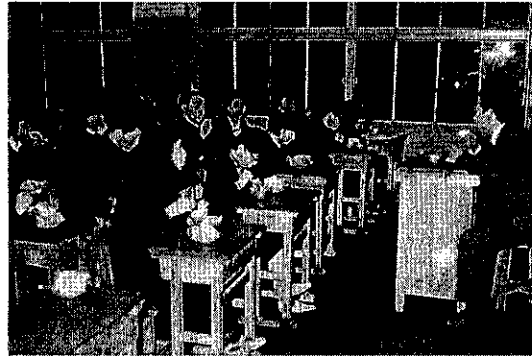
給食

栄養士 中村 昌代

向丘高等学校の創立五十周年にあたり、学校給食について振り返ってみると、定時制課程夜間学校給食も昨年四十周年を迎えました。明治二十二年に初めて学校給食が実施された永い歴史から見ると、短く思われますが、同じ一日の一食であっても小中学校の昼食と定時制の夜食では、生徒の年齢差だけではない意義があると思います。

四十年間に食生活も変化し、小児成人病やアレルギーの問題も聞かれるようになりました。調理業務も委託化されて、食堂でのセルフサービスが定着しました。

改修工事された本校の食堂での給食も軌道に乗り、これからは、選ぶ給食、日本の伝統食の見直しなどを目指しています。



▲昭和39年の給食

給食ありがとう

河内山 晶子

六時十五分のチャイムは、ふつうのチャイムとは音色が違うような気がします。一時間目の終わりを告げるこのチャイムは又、「ごはんですよ。」の、お母さんの呼び声でもありません。忙しさに紛れて、家庭でさえも、コンビニの既製品が幅を利かせている昨今、湯気の立つ汁物や、できたての香りが立ちのぼる彩り豊かな料理を、みんなでいただけるというのは、とてもありがたいことです。

給食制度の開始にあたっては、昼間、働いて夜学に駆けつける若者たちのために、体に良い給食をなんとか食べさせてあげたいという、熱い思いから、多くの方々の尽力の末に、実現したものだと聞いています。今私達は、この恩恵にあずかって、毎日おいしく楽しく給食をいただいています。

この制度を始めようと努力してくれた人々、毎日栄養豊でおいしい献立をたてるために頭を悩ましてくれていた栄養士の方、厨房で汗だくになって、それをつくってくださる調理員の方々に、心から感謝します。まちががなく、このひとときは、私達にとって、楽しくしかも次への活力を与えてくれるひとときです。

人は、おいしいものをいっしょに食べると仲良くなってしまうものです。私も教卓をは

5月予定献立表

平成 4

東京都向丘高等学校 (定)

月	火	水	木	金	土
行事予定 1日 映画教室 (5時30分給食) 17日 新入生歓迎遠足 18日 振替休日 20日 開校記念日				1	2
				鮭ごはん きのごスープ マカロニグラタン 大根サラダ 牛乳	ごはん、みそ汁 ポークピカタ ほうれん草のソテー ポテトサラダ 漬漬、牛乳
4	5	6	7	8	9
休 日	こどもの日	えんどう豆ごはん すまし汁 豚の煎焼き ふきの煮物、酢みそ かぶのそぼろ煮 牛乳	ビーフカレーライス コンソメスープ アセドアンサラダ グレープフルーツゼリー 牛乳	ごはん、みそ汁 鶏肉のチーズ焼き 高野豆腐の煮物 こま和え 漬漬、牛乳	スパゲティミート ソース ニラと卵のスープ 海草サラダ くだもの 牛乳
11	12	13	14	15	16
ごはん 中華コンソープ 商老のチリソース キャベツの中華和え 牛乳	ごはん、みそ汁 メンチカツ、生やさ い セロリのきんぴら 粉吹雪 フレンチサラダ 牛乳	ミックスピラフ 鶏肉とやさいスープ 煮 やさいサラダ プラマンジェ 牛乳	ごはん、野菜スープ 鮭のムニエル やさいソテー マッシュポテト フレンチサラダ 牛乳	ごはん、みそ汁 しいたけの肉詰め 炒り豆腐 こんにゃくの煮物 おひたし くだもの、牛乳	ごはん、みそ汁 豚肉のきのごソース スパゲティナポリタン もやしサラダ 牛乳
18	19	20	21	22	23
振替休日	ごはん、みそ汁 鯖のみそ焼き 肉じゃが 辛子和え、漬漬 くだもの、牛乳	開校記念日	ごはん、わかめス ープ 肉団子の甘酢あん ニラと豆腐の炒物 もやしのナムル 牛乳	ドライカレーライ ス レンクススープ ポテトオムレツ フルーツクリームか け 牛乳	ごはん、みそ汁 豚肉のくわ焼き 切干大根の炒煮 酢物 煮豆、牛乳
25	26	27	28	29	30
ごはん、みそ汁 鶏肉の唐揚げ いんげんの炒物 春雨サラダ くだもの、牛乳	ごはん、みそ汁 豚肉のオニオンス ープ煮 ジャーマンポテト コーンソテー フレンチサラダ 牛乳	ソース焼きそば ワンタンスープ ツナサラダ 密仁豆腐 牛乳	ごはん、みそ汁 天ぷら盛り合わせ わかめの酢物 漬漬 くだもの、牛乳	きじ焼き丼 さつま汁 きんぴらごぼろ ピーナツ和え 牛乳	ごはん 春雨スープ もやしの和え物 豚肉と豆腐の炒物 くだもの、牛乳

さんだ関係でなく、同じテーブルで「同じ釜の飯」を食べることの中で、多くの貴重な語り合い、ふれあいができたように思います。これからも、心のこもった給食を、心から味わっていただき、定時制で学びあい磨きあう活動のエネルギー源したいと思います。

献立は学校行事、材料購入等により変更する場合があります。



▲平成8年の給食



▲昭和59年の給食

生徒会活動における反省と 今後の発展のために

松本 謙治

今年本校が五十周年を迎えるということですが、六階建ての新校舎が完成、エレベーター、冷暖房完備、授業に必要ないろいろな施設があり、今年入学された生徒たちはとても幸せだと思います。今後入学してくる後輩のためにもこのような施設を大切にしていきたいと思います。

私がこの向丘高校へ赴任してきたのは一九九一年、今から七年前ですか、三階建ての校舎で、かなり古い校舎でした。今のような近代的な施設などではなく、私の頭の中で絵がいている学校らしい、学校と言ってもいいかわりません。グラウンドの狭さは昔も今も変わりませんが、ただいまグラウンドは整備中で来年二月ごろにはすばらしいものとなるでしょう。夜間照明も明るく、体育の授業や球技大会などの行事には利用しやすくなるはずで

低迷する生徒会活動

私がこの学校へ赴任してきた当時はかなりの数の生徒がいました。普通科八学級・商業科四学級でした。生徒会活動もかなり活発だったと思います。球技大会にしろ、クラブ活動にしろ、いろいろな面で意気盛んなとこ

ろがありました。しかしこの三、四年前から急激に生徒の数が減り、現在、普通科、各学年一クラスづつ、四学級(単学級)だけとなり、生徒総数五十五名ほどの規模の定時制です。しかし考えようによっては適正規模の学校であると思うのです。教職員からすれば一人ひとりの顔が見え、授業を通して生徒たちと楽しく過ごすことができます。しかし現在生徒会活動はいまいち活発とはいえません。ごく一部の有志に偏り、その訴える力は弱く、全校生徒の意識の底にまで深く食い入っていないのが現状です。今の若者の気質なのか、誰かがやってくれるであろうと、傍観したり、あるいは無関心さをよそおったりするのはなぜなのでしょう。生徒会役員を公募してもなかなか積極的に名乗り出してくれる生徒はなく、教職員が生徒に説得して、やっと役員になってくれるというありさまです。定時制に通う生徒たちは昼間働き、疲れがあるなかで夜、学校へ来るので理解できないこともありません。しかし生徒会活動のことを悲観的に書きましたが、かなり積極的に活動をしているクラブがあります。また、スポーツ大会や向陵祭や卒業生を送る会など生徒たちは楽しく、しかも積極的に動いています。まだまだ本校の生徒たちは捨てたものではありません。

今後さらに生徒会活動を活発化にするにはどうすればいいのか一言では言えませんが、

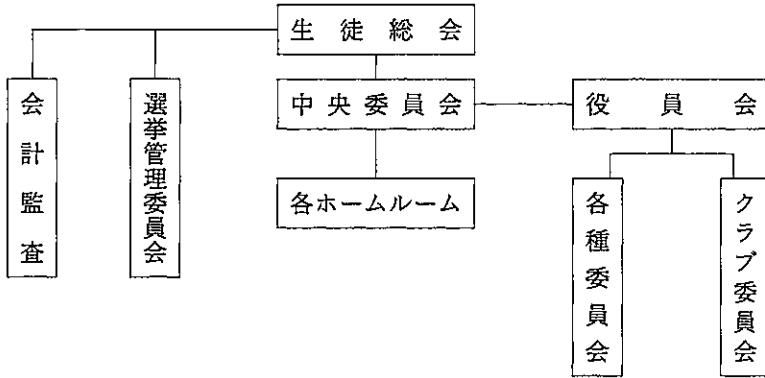
少なくとも一人ひとりの自覚と主体性がなくてはならないでしょう。学校側としては生徒たちが活動しやすい場、すなわち環境を作ってあげなければなりません。そうすれば近い将来必ずや生徒会活動も活発になると信じています。

▼平成8年(1996)向陵祭



生徒会活動

本校の生徒の自主活動はすべて生徒会活動の組織のもとに行われる。全校自治活動のための執行機関である各種委員会および各クラブの活動、また生徒会の根幹をなす下部機関であるホーム・ルーム活動などがこれである。



▼平成7年スポーツ大会



平成10年度
クラブ活動

	部	顧問
運動部	野球部	仁井田
	バドミントン部	河内山
	バスケットボール部	野末
	テニス(硬式)部	尾崎
文化部	野外活動部	松本
	ウェイトトレーニング部	眞柄
部	紙工部	若菜
	写真部	眞柄
	科美術部	仁井田
	美パソコン(インターネット)部	石原
		松本

▼昭和56年卒業生を送る会(予銭会)



▼昭和56年向陵祭



クラブ活動

野末 明

一、クラブ活動の沿革

当初は、生徒の自主的な要求でクラブが作られ、演劇部は昭和二十九年「春雷」が演劇コンクールで優勝、卓球部も都定通大会で優勝した。「学校要覧」によると、昭和三十五年は文化部(13)運動部(8)だが、昭和四三年には文化部(8)運動部(9)同好会(4)と初めて運動部数が文化部数を上回り現在に至る。クラブ数(同好会を含む)は、昭和四十五年被服科が廃科になりクラス数が16↓12に減り、20↓17に減少した。その後は、10↓17で推移し平成八年商業科が廃科になりクラス数が4になり、8↓10に落ち着いた。廃科・クラス数の減少に伴いクラブ数も減少したことがわかる。クラブ活動の時間帯は、昭和三十五〜四十二年は水曜四限、昭和四十三〜四十八年は水曜四限・土曜放課後、昭和四十九〜平成六年は木曜四限・土曜放課後、平成七年から木曜四限になった。職員会議の開催曜日が水から木に変更したためだろう。

昭和三十五年「学校要覧」によると在籍633名で文化部―演劇(部員数(以下同)26)英語(20)音楽(27)家庭(32)華道(38)商研(39)書道(25)数学(29)美術(36)生物(26)文芸(25)理化(6)珠算(30)運

動部―剣道(8)山岳(56)柔道(37)卓球(53)庭球(20)排球(55)籠球(36)陸上(9)と部員数が多く庭球(テニス)排球(バレーボール)籠球(バスケットボール)が使用され隔世の観がある。現在(平成十年)は在籍56名で運動部―野球(4)バドミントン(2)バスケットボール(15)テニス(2)ウエイトトレーニング(12)文化部―パソコン(インターネット)(11)野外活動(1)紙工芸(2)写真(5)化学(3)であり兼部の生徒が多い。パソコン、ウエイトトレーニングは新時代に即応したクラブといえる。

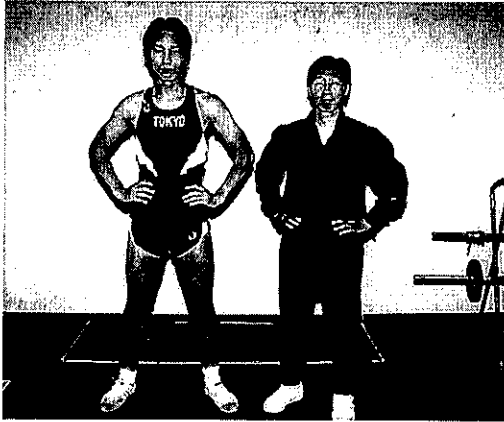
二、最近のクラブ活動

陸上部は、平成四年八月七〜九日に四年富永玲子さんが全国大会(於国立霞ヶ丘陸上競技場)に出場し女子砲丸投げで活躍した。平成七年八月十一〜十三日に四年大高典君が全国大会に出場し、三段跳びで決勝1位、100mで決勝5位、4×100mリレーで決勝4位になった。毎日放課後トレーニングに励んでいた姿が思い浮かぶ。柔道部も平成七年秋の都定通大会で四年福島一郎君が決勝で敗れ、全国大会には団体戦で出場した。

バスケット部も男子・女子共活動が盛んで、平成三年にバスケット部(女子)が都定通大会で準優勝し、全国大会に出場した。写真に写っているのがその時の賞状だ。中心メンバーは、四年宮崎紀子さんだった。女子はその後休部になり、男子は平成七年秋の都定通

大会三回戦(於駒沢体育館)で敗れたが、ベスト16に進出した。中心メンバーは、三年越阪部勲君だった。陸上部・柔道部は個人練習を重ね、バスケット部は練習試合を重ね、成果が実った。大体四年生が主流で部員を引っ張っている。

科学部は、平成七年頃から科学の祭典に参加し、野外活動部も年数回のハイキングを実施し、最近ではパソコン部・テニス部もよく活動している。伝統ある演劇部は、生徒の自主性を重んじ文化祭等で公演していたが、平成七年に休部となり、卓球部も翌八年に休部になった。クラブ活動は、生徒の熱意と顧問の熱意が合致した時に成果を上げる。以前は、クラブ活動が命という生徒がけっこういたが、ここ二年ほど、そうした生徒が少なくなつたのが残念だ。



▲陸上部平成7年度全国大会



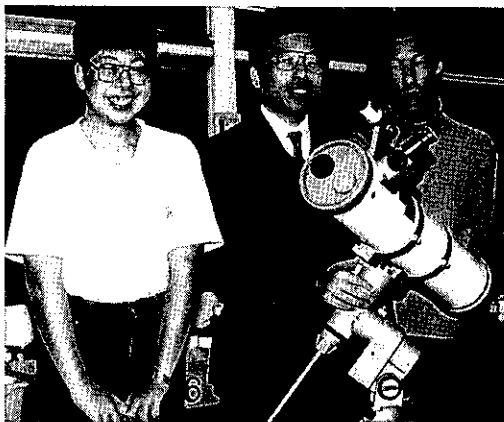
▲柔道部平成7年度都定通大会準優勝



▲バスケットボール部(女子)都定通大会準優勝



▲バスケットボール部平成7年度都定通大会ベスト16位



▲科学部東京生物クラブ連盟より優秀賞を授与



▲パソコン部

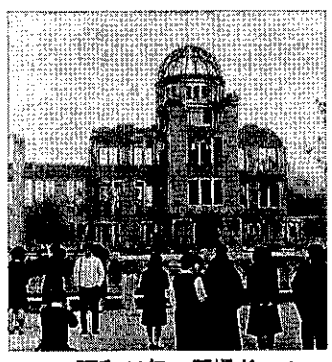
校外活動
修学旅行と遠足

修学旅行

- 昭和33年 5月1日～5日 北海道
- 昭和34年 6月3日～7日 東北
- 昭和35年 5月1日～4日 関西
- 昭和36年 9月20日～24日 紀伊
- 昭和41年 4月26日～30日 京都
- 昭和42年 4月25日～29日 京都



▲昭和33年 北海道



▲昭和44年 原爆ドーム

- 昭和44年 4月26日～30日 小豆島、広島、岩国、姫路、京都
- 昭和45年 4月25日～29日
- 昭和46年 10月26日～30日 広島、四国、小豆島
- 昭和47年 4月25日～29日 山陰
- 昭和48年 5月29日～6月2日 秋田、岩手
- 昭和49年 4月30日～5月4日 四国
- 昭和50年 5月17日～21日 鳥取、島根、岡山
- 昭和51年 5月18日～21日 能登、金沢
- 昭和52年 5月13日～17日 山口、広島、岡山
- 昭和53年 5月24日～27日 会津
- 昭和54年 9月24日～27日 伊勢、紀伊
- 昭和55年 9月23日～26日 北陸、高山
- 昭和56年 9月21日～23日 奈良、京都
- 昭和57年 10月8日～10日 東北
- 昭和58年 10月14日～16日 高松、松山、広島
- 昭和59年 10月12日～14日 京都
- 昭和60年 10月10日～13日 山陽、瀬戸内
- 昭和61年 10月10日～12日 山陰、山陽
- 昭和62年 10月8日～10日 広島、小豆島、倉敷
- 昭和63年 10月16日～18日 十和田



▲昭和48年 ドリームバス



▲昭和54年 紀伊



▲昭和53年 磐梯山頂上

平成元年10月10日～12日 四国、山陽、神戸
 平成2年10月9日～11日 倉敷、四国、神戸
 平成3年10月9日～11日 小豆島、岡山
 平成4年10月7日～9日 北海道
 平成5年10月14日～16日 北海道
 平成6年10月13日～15日 北海道
 平成7年10月19日～21日 京都、伊勢、志摩
 平成8年10月23日～25日 沖縄
 平成9年10月7日～9日 北海道
 平成10年 修学旅行参加希望者少数のため中止



▲平成8年 沖縄

遠 足

昭和42年 筑波山
 昭和43年 観音崎
 昭和45年 上野公園文化財見学、奥秩父ハイキング
 箱根彫刻の森ハイキング等
 昭和46年 ユネスコ村、マザー牧場、高尾山
 泉自然公園、城ヶ島
 昭和47年 狭山湖
 昭和48年 矢切りの渡し
 昭和51年 奥多摩
 昭和59年 浜離宮、浅草
 昭和60年 鎌倉
 昭和61年 森林公園
 昭和62年 上野公園
 昭和63年 東京ディズニーランド



▲平成9年 北海道(教頭先生と)

平成元年 芦ヶ久保
 平成2年 東京ディズニーランド
 平成3年 東京ディズニーランド
 平成4年 豊島園
 平成5年 東京ディズニーランド
 平成6年 ナムコワンダーエッグ
 平成7年 東京ディズニーランド
 平成8年 後樂園遊園地
 平成9年 東京ディズニーランド



▲昭和51年 奥多摩



平成8年 後樂園遊園地▶
 (校長先生と)

教育実習にて

平成5年度卒業生 中沼 進

私は、この学校の定時制を卒業し、創立五十周年の今年、教育実習生として、もう一度、お世話になることになりました。そして、この文章を書かせて戴くことになったわけですが、今回、教育実習に来てビックリしたことについて書いてみたいと思います。

実習前の打ち合わせで新校舎に初めて入り、まず始めに驚いたことは、エレベーターがある、ということでした。しかも、一階でございませうなんて、しゃべるやつである。私がこの学校の学生だったころは、エッチラ、オッチラ階段を登っていたのに……。

いくら新校舎になったとはいえ、この差は一体？
やはり、時代がかわったのだろうか。

実際に実習期間に入り、ふと、女子生徒達を見る。なんと、学生服を着ているではないですか。いわゆるコギャル風体といったやつですか。しかも、みんな学生服が違う。まるで学生服の品評会みたいだ。

私達がこの学校の学生だったころ、友達と”夜の学校に制服がなくて良かったね”なんて言っていたのに……。

なんだかジェネレーションギャップを感じてしまった。

今回、四年生の授業を四回やらせてもらいました。その中で、静かに、まじめに授業にとりくむ生徒達を見て、ビックリ。

はつきり言うとか、そうとう荒れると思っていたし、もしかしたら、いじめられるかも、なんて考えていた。

……正直なところ、ホツとした。

こんなふうなことに驚いたわけですが、けっこう楽しく実習ができました。

これからも、向丘高校定時制には、頑張ってもらいたいです。

五十年前

旧本校定時制教諭 北川 太一

五十年前の焼け跡の中の学校生活を思い出すと、なんだか微笑ましくなる。「一度遊びに来ない」と誘ったのは中学の後輩英【はなぶさ】一太君だが、二人とも東京工業大学の三年生だった。新制度の高等学校として四月に発足した向丘本郷高等学校の定時制は、焼け残った真砂小学校の二階にあつた。何気ない訪問がいれば運のつき。試験も何もあつたものではない。その日から授業をやらされ、何とも桁はずれな定時制に四十年近くもかわることになった。思えば出発からこの定時制高校は不思議な魅惑に満ちていた。校長は東京大学名誉教授東洋哲学の泰斗宇野哲人博士。白髪白髭の鶴のような老学者は、いつもやさしく若い教師たちを教えて倦【う】まなかつた。教師といつても大半は戦地帰りの大学生、地理や人脈の関係もあつたのか、東大の学生が多かつた。旧制中学の卒業者は四年に編入することで新しい高等学校卒業の資格が認められる。兵隊服か学生服を着ているのが教師、社会人風なのが生徒。翌年全定共通の校舎が出来ても、お巡りさんや郵便屋さん、そんな生徒たちの方がはるかに大人にみえた。

奄美大島出身の長田弘主事の豪快淋漓たる呑みつぶりに眼を見張つた。小学校から始まってこのあたりの教育畑に根を生やした人物だから、町の中はどこに行っても教え子だらけ。酔っぱらつて男女を問わず生徒のほつぺにキスの洗礼などは日常茶飯。蛇皮縁と指笛の名手の「よかッち」という一語に、教師も生徒もこの巨大な体軀の親父を信頼した。もちろん主事を支えるベテラン教師たちにも事欠かなくなつたが、多分我侷な学生教師たちには悩まされたことだろう。毎日恒例のように停電したが、教師も生徒も、なんでもやつていような気がして、一緒によく遊びよく遊んだ。そんな青春物語は、書き始めればきりもない。

向丘あれこれ

日本校商業科教諭 高柳 正幸

私は、一九七九年池袋商業から転勤になり以後十八年在職、九七年三月ここ向丘高校で定年を迎えました。

ともかく、いろいろなことがありました。着任当時、商業科も意気盛んでした。特に簿記関係は、地域住民も受け入れて、専門的な授業を展開し、先生も生徒も一生懸命勉強し、一級合格者が何人も出ました。今でいえば、「社会人入学」の先取りと言えましようか。しかし、三年余で終わりました。

向丘に来て、いきなり普通科の担任になりました。それまで商業高校で商業科の生徒だけを教えていましたから、氣質の違いと言うようなものを感じました。それにしても、当時の向丘は、豪放磊落というか、個性的でスケールの大きい先生や生徒がいたことを思い出します。学校行事の講演会も、小林完吾氏の「人のせいにはできないたった一つの命」とか、田部井淳子氏の「エベレストへの道」など、「どう生きるか」をテーマにしたものが印象に残っています。

九十年までの数年間は、第二次ベビブームの影響もあって、生徒数が大幅に増えて活況を呈していましたが、それもつかの間で、九二年は、商業科の募集停止の提示がありました。文京区唯一の商業科を何としても存続させるべく教職員全員で「商業科を守る会」を結成し、PTA・同窓会・地域の方々の協力をいただき、連日の署名活動、ピラ配りなどを行いました。復活できなかつたことが今でも残念に思っています。

それにしても、向丘高を取り巻く文京界隈は花が美しいところです。春は浄心寺の桜、つづいて根津神社のつじ、梅雨に入って白山神社のあじさい、足を延ばして小石川植物園の花々など、思い出しても心が和みます。

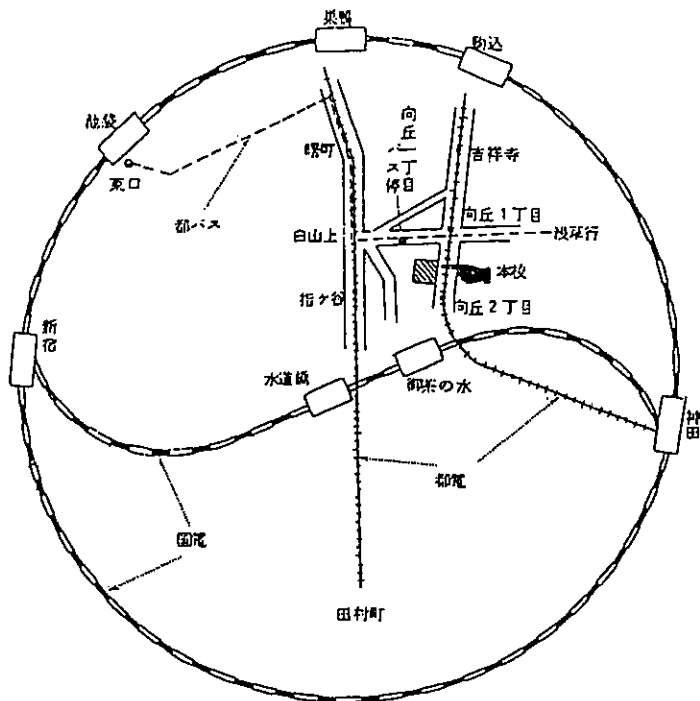
最後に新校舎成った向丘高校の益々のご発展を祈念いたします。

現在の向丘高校定時制

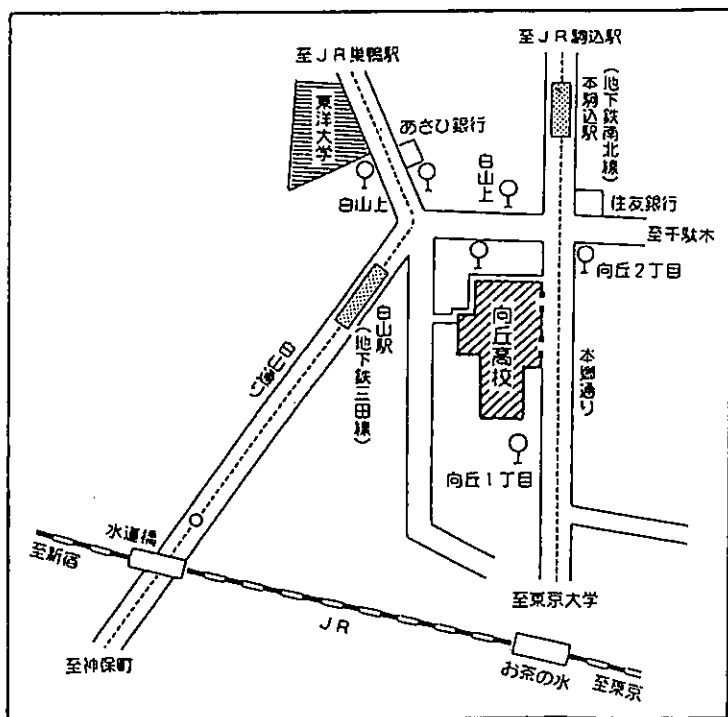
定時制教諭 真柄 功

一九九八年度は改築なった新しい校舎での出発となった。定時制は今年度、一年生が十名以上集まらないと廃校となる厳しい状況におかれましたが、幸い一年生の在籍が二〇名近くになって事なきをえることになりました。新築の校舎という吸引力もきいたかもしれません。しかし、いつまた基準を下まわることになるかも知れず、ここしばらくは生徒募集に苦労しそうです。当然、教員の定数もだいたい減員となりまして、生徒ともどもさびしい状況となっています。しかし、特に一・二年生についてはかなり落ち着きのない状態で担任の先生、生活指導部の先生はかなり苦労しています。昨年度を除いて、毎年の年度当初は似たような有様になります。新校舎における学校生活は新しいだけにさすがに快適なものです。ただ一・二の点について若干問題があるようです。例えばエアコンが中央制御になつていて、プレハブ校舎のように個別に暖冷房を入れることができない点などかえって不便な点があります。定時制の職員室については人数のわりには広い部屋を割り当てられて、全日制には悪いような気がしています。しかしその可能性も少ないのですが、定時制もいつ生徒数が多くなるかも知れず、それを考えればスペース的に不安を抱えている必要があるのでは助かります。

本校の所在略図



昭和41年



平成10年